

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



を活用した学習の事例（指導案等）



概 要	
学年・教科・単元等	<p>中学校 2 年生・国語</p> <p>「根拠の適切さを考えて意見文を書こう」</p>
活用方法	<p>「根拠の適切さを考えて意見文を書く」学習において、単元全体を実践モデルプログラムの過程に位置付ける。「見いだす」過程で学習のゴールを明確にし、「自分で取り組む」過程で、自分の意見の根拠となる資料や事例等の必要な情報を収集したり、収集した情報を整理・分析したりすることで、相手に自分の考えが伝わりやすい意見文を書くことに繋げる。「広げ深める」過程で友達と意見交換を行い、意見文の構成や表現を推敲する。また、「まとめあげる」過程で振り返りを書いて蓄積することで、生徒自身が何を学び、どのような力が身に付いたのかを意識させ、学習内容の定着に繋げる。</p>
成果等	<p>実践モデルプログラムの過程を取り入れたことで、主体的に学習に取り組むことができた。また、「自分で取り組む」場面で効果的に ICT 機器を活用した。ICT 機器の活用により、意見文の共有や文章の推敲を容易に行うことができ、思考力や表現力を高めることに繋がった。</p>

教科研究主題

主体的に学び表現する生徒の育成 ～「根拠を明確にして書くこと」の学習を通して～

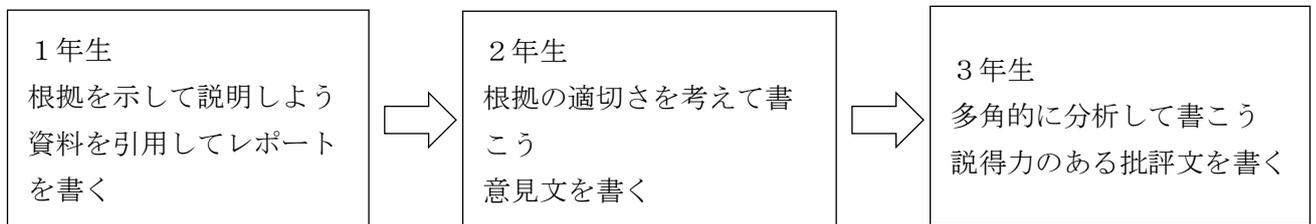
1 単元名 根拠の適切さを考えて意見文を書こう

2 単元について

(1) 単元観

本単元では、適切な根拠を考えることに重点を置き、説得力のある意見文を書くことがねらいである。意見文とは、ある事柄や問題などについて、根拠を示しながら自分の考えを筋道立てて述べる必要がある。体験などを通じて、自分の心の中で感じ取ったり思ったりしたことを表す感想文にとどまってしまう生徒には、客観性の高い信頼できる情報やデータを示したり、複数の根拠を示したりすること等を助言していく。また、意見に当たる部分と、それを支える根拠となる部分を分けて書くように指導していく。明確な意見文にするためには、伝えたい意見が明確であることはもちろんのこと、意見とそれを支える根拠とのつながりを明確にすることが重要である。読み手の立場に立ち、どのような順で書けばわかりやすく伝わるのか、構成の工夫も考える。意見文は、学校生活はもちろん、日常生活の中でも触れることが多く、「自分がそう思う」というだけでは説得力のある意見文にはならない。意見の根拠を吟味する習慣が、今後の学習や日常生活につながることに気づかせる。

(2) 指導内容の系統性



1 年生「根拠を示して説明しよう」では、人に何かを説明するためには説得力のある根拠を示すことが重要であることを学んだ。また、レポート作成に当たり、資料を引用して書くことを学習した。それを受けて、2 年生では、自分たちの日常生活を振り返る中で生まれた願いを意見文として書くという活動を行う。自分の伝えたい意見に対して、適切な根拠であるかどうかを分析しながら文章を書くことで、自らが伝えたい考えをわかりやすく表明できる生徒を育てる。

3 単元の目標

(1) 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。

[知識及び技能] (2) ア

(2) 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加え、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

[思考力、判断力、表現力等] B (1) ウ

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に
して、思いや考えを伝え合おうとしている。

「学びに向かう力、人間性等」

様式 2

4 指導計画

実践モデル過程	時	学習活動	観 点 別 評 価 規 準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
見 い だ す	1	○単元の見通しをもち根拠の適切さを吟味する方法を学ぶ。	○意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報との関係について理解している。	○意見と根拠のつながりを明確にした文章の書き方について理解している。	○これまでの学習を活かし、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。
	2	○自分の意見をもつために、マッピングで意見文の課題を考える。	○具体と抽象の関係に着目して、マッピングを広げている。	○根拠の適切さを考えて、自らの考えを説明したり、書いたりしている。	○これまでの生活を振り返り、関心のある事柄について粘り強く見つけようとしている。
自 分 で 取 り 組 む	3	○集めた情報を整理して、根拠となる内容について分析する。	○自分の意見を支えるために必要な適切な根拠を見つけている。	○根拠となる事実を具体的に書いている。	○粘り強く根拠の適切さを考えて、相手に意見を伝えようとしている。
	4	○ICT端末を活用して構成メモに表し、自分の意見に合う構成の型を考える。	○意見と根拠に着目し、調べた情報と情報との関係について、理解している。	○表現の効果を考えて自分の考えが伝わる文章になるように構成を工夫している。	○根拠の適切さを考えて意見を明確に伝えるための順序について粘り強く考えようとしている。
広 げ 深 め る	5	○立場と根拠の関係や読み手の立場に立って表現を工夫する。	○読み手の立場に立って、効果的な文章表現を選んでいる。	○自分の考えが読み手に伝わる文章になるように、工夫して書いている。	○自分の考えが伝わる意見文となるよう根拠の適切さを考えて書こうとしている。
ま と め あ げ る	6	○意見文を友人と交流し、単元のまとめと振り返りをする。	○意見文を書く時の視点について理解している。	○意見文を書くときの視点について文章で表現している。	○この学習を今後どのように活かすかを考えようとしている。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・自分の意見を支えるための適切な根拠を選ぶことができる。 [知識及び技能]
- ・表現の効果を考えて、自分の考えが伝わる文章になるように構成を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等]

(2) 教科研究仮説との関連

教科研究仮説

①見通しをもったり、振り返ったりする活動を計画的に取り入れれば、生徒は主体的に学習する

様式 2

だろう。

②一人一人が自分の考えを明確にするために、言葉による見方・考え方をはたらかせ、考えを形成する場や互いに学び合う場を設定すれば、主体的に学び表現する生徒が育つだろう。

①に関して、学習課題を明確にさせ、振り返りシートを活用することによって、この授業で何を学ぶのか、何を身に付ければよいのかを明確にする習慣を付ける。

②に関して、「読み手」が誰かを明確にさせ「意見文として披露する」という見通しをもたせる。「自分たちの生活に直結する＝自分事として捉える」ことを通し、主体的に学び表現する生徒の育成を目指す。

(3) 展開 (6時間扱い 4時間目)

過程	時配 (形態)	学習活動と内容	○指導上の留意点・支援 ◎評価 ※研究との関連	教材 資料
見出す	5分 (一斉)	1 前時の振り返りと本時の見通しをもつ。	○テーマに対して、どのような意見が出たかを発表する。	授業の記録 プリント
自分の伝えたい意見に合う構成を考えよう				
自分で取り組む	10分 (個別)	2 賛成・反対の立場を決めて「自分の意見を支える根拠」を書き出す。 予想される生徒の反応 ・この文は「客観的な事実」と言えるのか？ ・この文は「意見と根拠をつなぐ考え」と言えるのか？	○「根拠となる事実」には、客観的な事実を、「事実から考えたこと」には、意見と根拠をつなぐ考えを書くことを確認する。 ・書いていない生徒には、事実なのか、考えなのかを助言する。(T2) ◎自分の意見を支えるための適切な根拠を、複数の根拠の中から選ぶことができる。(知識・技能)	タブレット
広げ深める	20分 (グループ)	3 同じテーマを選んだクラスメートに読んでもらい、根拠が妥当かどうか助言をもらおう。 予想される生徒の反応 ・この文は「客観的な事実」ではなく「主観的な意見」ではないか。 ・この根拠では弱いので、別の根拠をもってきたほうがよいのではないか。	○より説得力をもたせるための構成の型にも着目させる。 ・多角的な意見が出るように、話し合いが滞っているグループには助言をする。(T2)	タブレット

様式 2

まとめあげ	12分 (個別)	4 「構成メモ」を作る。	<p>○一文が長くなりすぎないように助言する。(80文字程度) (T2)</p> <p>○メモを書き終えた生徒には、送信するように指示をする。</p> <p>◎表現の効果を考えて、自分の考えが伝わる文章になるように構成を工夫することができたか。(思考力・判断力・表現力等)</p>	タブレット
	3分 (個別)	5 「学習の記録」を書く。 <u>予想される生徒の反応</u> [まとめ] <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを相手に印象付けるために双括型で書く。 自分の体験やその他の人の体験を客観的な事実として伝えるので尾括型で書く。 初めに自分の考えを宣言して、その後事例を書くので頭括型にする。 相手を説得させるためには構成の中に「反論」を入れることが大切だ。 [振り返り] <ul style="list-style-type: none"> 自分では妥当だと思っていた根拠でも、読み手の経験や価値観の違いで意見を支えるまでにはいかなことが分かった。根拠に書き換えて友達の意見を聞こうと思う。 根拠を集めているうちに、自分の考えが妥当なのかという疑問が出てきた。集めた根拠の共通点を探り、自分の考えを見直そうと思う。 	<p>○本時の学習についての「まとめと振り返り」を、自分の言葉で書かせることで、自分の思考を振り返らせる。</p> <p>○「まとめ」は本時の学習課題に対する答えであり、「振り返り」は本時の学習を終えて、自らの学びについてわかったことやそれに対する考察、仮説や結論について書かせる。</p>	授業の記録

(4) 板書計画

